

過去委員会での意見への対応状況について

平成21年3月

大阪府

石川河川整備計画 本文(案)

項目	主な委員意見	本文(案)への反映 (本文より抜粋)
<p>河川整備計画に定める事項：第十条の三 第1章 河川整備計画の目標に関する事項</p>		
<p>第1節 流域及び河川の概要</p>		
<p>1.流域の概要</p>		
<p>2.流域の特性</p> <p>2.1 自然環境特性</p> <p>(1) 地形・地質</p> <p>(2) 気候</p> <p>○ 近年の雨の傾向</p> <p>(3) 動植物</p> <p>○ 食性</p> <p>○ 鳥類</p> <p>○ 両生・は中類</p> <p>○ 水生生物 (魚類)</p> <p>○ 水生生物 (貝類・甲殻類)</p> <p>○ 昆虫類</p> <p>(4) 景観</p>	<p>(H19年度_第4回)</p> <ul style="list-style-type: none"> 魚類に対し、在来種・外来種の整理を行うこと。 <p>(H19年度_第3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な生息環境について、瀬と淵以外に、上下流や横のつながりなどについても、生物や水量のデータ等から考察を加えること。 大阪府を代表する特徴的な自然景観資源を持ち、資源に根ざした文化をつくってきた地域であり、(支川の)生活と密接に関連する景観文化や自然文化について整理すること。 	<p>○水生生物 (魚類)</p> <p>石川ブロックの水生生物 (魚類) は、昭和 62 年～平成 18 年の調査で 10 科 32 種 (在来種 8 科 26 種、外来種 3 科 6 種) の魚種が確認され、<u>河川中・下流域では、水たまりや水田水路などの止水域を好むメダカ、水田や河川敷の水たまりを産卵場とするドジョウなどの貴重種も確認されています。</u></p> <p><u>下流域では、コイやギンブナなど、湛水域や淀んだ水域を好む種が多く確認されています。上流域では、瀬と淵が一体となった多様な河川環境を必要とするアブラハヤやタカハヤの生息も確認されています。</u></p> <p>(4) 景観</p> <p>金剛生駒紀泉国定公園に指定される源流部には、滝や非火山性孤峰などの自然景観資源が分布しています。この他、<u>眺望に優れた石川、右岸に広がる田園風景、美しい棚田が見られる山間部、市街地に潤いをもたらす多くのため池、古いまち並みや古墳など、歴史的・文化的景観が多く残り、これらの背景として金剛生駒葛城山系の美しい山並みが広がり、石川ブロックの景観を特徴づけています。</u></p>
<p>2.2 社会環境特性</p> <p>(1) 人口・産業</p> <p>(2) 土地利用</p> <p>(3) 下水道整備</p> <p>(4) 公共・レクリエーション</p> <p>(5) 交通</p>	<p>(H19年度_第3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の社会特性の変化 (1 次産業からの市街化等) が、地域にどのような問題をもたらしたのかを計画に反映させてはどうか。 流出抑制の観点から土地利用の動態 (放置林・耕作放棄地)、法規制 (禁漁区、国定公園、保安林) などについて整理を行うこと。 	<p>(1) 人口・産業</p> <p><u>人口に占める高齢者 (65 歳以上) の割合を見ると、大阪府の 18.7% に対して、千早赤坂村が 24.3% と高くなっており、山地部での高齢率が高いことが伺えます。就業人口の推移は、いずれも第 1 次産業が減少し、第 3 次産業が大きく増加しています。</u></p> <p><u>このため、後継者不足及び農林業従事者の高齢化に伴う耕作放棄地や放置林が増加しています。</u></p> <p>(2) 土地利用</p> <p><u>「近郊緑地保全区域」「地域森林計画対象民有林」「自然公園区域」の地域では、一定規模以上の開発行為に対して許可・届出が必要となり、森林の持つ重要な働きが損なわれないような規制がかかっています。</u></p>

石川河川整備計画 本文(案)

項目	主な委員意見	本文(案)への反映 (本文より抜粋)
<p>2.3 歴史・文化</p> <p>(1) 流域の歴史</p> <p>(2) 河川の歴史</p> <p>○ 治水の歴史</p> <p>○ 利水の歴史</p> <p>(3) 文化財</p> <p>(4) 行事・イベント</p>	<p>(H19年度_第3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> 近つ飛鳥や寺内町など、非常に歴史文化が厚い地域であることを踏まえ、「川と歴史」「川と文化」のような形でのまとめること。 富田林寺内町は、府下唯一の伝統的建造物群保存地区に指定されていることが特徴であり、記載しておくこと。 <p>(H19年度_第4回)</p> <ul style="list-style-type: none"> 治水・利水計画を考える上で、石川本川・支川の治水・利水等の歴史、河川整備状況の経緯・背景を整理すること。 	<p>(1) 流域の歴史</p> <p>1704 年の大和川付け替え以前は、富田林を初めとする寺内町では造り酒屋などが栄え、<u>石川と大阪の難波を往来する剣先船による水運によって、米や酒、木材などが運ばれました。</u>寺内町には、旧杉山家が国の重要文化財に指定されるなど、現在もその歴史的町並みや史跡・文化財等が多く残っています。</p> <p>(3) 文化財</p> <p>石川ブロック内には、原始・古代から近世にかけての歴史・文化環境を有する地域で、河川沿川に多くの史跡・文化財がみられます。石見川の源流部には、国宝に指定された金堂を境内に持つ、楠木正成が幼少の頃学問所として通った観心寺(かんしんじ)が、<u>金剛葛城の山麓には、ため池や溝が整備されるほど飢饉が頻発し、水分神が奉られたことにはじまる建水分神社(たけみくまりじんじゃ)、大阪で唯一伝統的建造物群保存地区に指定されている寺内町などがあります。</u></p> <p>(2) 河川の歴史</p> <p>○治水の歴史</p> <p><u>石川ブロックの中央を貫流する石川は、古くより堤防管理がなされてきました。舟運の利用が途絶えた大和川付け替え以降、戦後になって S37 から本格的な築堤工事が始まり、昭和 57 年 3 月には治水機能を有する滝畑ダムが完成しています。滝畑ダムが完成後は、豪雨時に自然調節方式により、洪水調節が図られています。</u></p> <p>近年では、近つ飛鳥として歴史・文化・自然豊かな地域の整備と保全を行うために、石川あすかプランを策定し、高水敷整備を行っており、これと併せて低水路護岸整備などを行った結果、概ね 50 年に 1 度の規模の降雨(132mm/7h)で発生する洪水を安全に流下させることができます。</p> <p>○利水の歴史</p> <p><u>1600 年ごろは、河川の下流の村々は川と土地の高低差が大きく、井堰により取水できないことから上流の村にお願いして、水を田畑に引き込んでいました。このため、用水路の補修やお米などを上流の村に提供せざるをえない状況でした。このような状況の中 1650 年ごろには、下流の村々では寺ヶ池が築造されるなど渇水に備えて、ため池が造られるようになっていきます。</u></p> <p><u>戦後には、農村の好況時に河川下流の村々において電力ポンプによる揚水が行われるようになり、近年では、土木技術の進歩により下流の村においても井堰による取水が行われるようになりました。</u></p> <p>また、昭和 40 年と平成 17 年の田畑面積では、平成 17 年の田畑面積が昭和 40 年と比較して約 60%程度に減少しています。</p>
<p>3.河川特性</p>		

石川河川整備計画 本文(案)

項目	主な委員意見	本文(案)への反映 (本文より抜粋)
第2節 河川整備の現状と課題		
1.治水の現状と課題 1.1 過去の洪水	(H19年度_第4回) ・ S57 災害と滝畑ダムの関連性について示すこと。	1.1 過去の洪水 石川ブロックでは、これまで多くの水害が発生しています。 <u>石川上流部には、昭和 57 年 3 月に治水機能を有するダムである滝畑ダムが完成していますが、同年 8 月の台風 9・10 号では、日雨量 (9h-9h) は石川流域で 193mm、道明寺地点の流量は 1,200m³/s を記録し、広い範囲で浸水が発生し、人的・物的被害は甚大なものとなりました。</u>
1.2 治水の現状 (1) 河川改修事業 ① 石川 ② 天見川 (支川含む) ③ 佐備川 (支川含む) ④ 千早川 (支川含む) ⑤ 梅川 (支川含む) ⑥ 飛鳥川 ⑦ 大乘川 ⑧ 原川		
(2) 下水道雨水排水計画		
(3) 開発に伴う恒久調整池の設置		
(4) ソフト対策		
1.3 治水の課題	(H19年度_第5回) ・ 治水の課題は、当面の目標から将来目標までの課題を示す必要があるのではないか。	(参考資料) 河川整備の長期目標 (治水・利水・環境) および検討内容を添付
2.利水の現状と課題 2.1 水利用の現状 (1) 滝畑ダムの概要 (2) 滝畑ダムの運用	(H20年度_第2回) ・ 現状において、滝畑ダムに唯一の水源を依存し、頻繁に取水制限が行われている説明を先にすべき。	(1) 滝畑ダムの概要 滝畑ダムは、・・・(中略)・・・ <u>河内長野市・富田林市の水道用水 (計画給水人口 288,300 人のうち約 30%をまかなう 43,750m³/日を給水)・・・</u> (2) 滝畑ダムの運用 昭和 57 年のダム共用開始後、 <u>経年的にダム流入量が減少する傾向にあり、度々、貯水容量が大幅に減少しています。このため、水道の取水制限が必要となる事態が頻繁に発生している状況です。</u>
2.2 水質の現状		
2.3 水量の現状		
2.4 河川空間利用の現状 ○石川河川公園	(H19年度_第3回) ・ 都市計画決定された石川河川公園という位置づけの明確化	○石川河川公園 石川河川公園では、・・・(中略)・・・ <u>みどりづくりの軸・拠点となる緑のネットワークのひとつとして整備が進められています。</u>
2.5 住民との協働		
2.6 河川利用の課題		

石川河川整備計画 本文(案)

項目	主な委員意見	本文(案)への反映 (本文より抜粋)
3.河川環境の現状と課題		
3.1 河川環境の現状		
(1) ゾーン・エリア区分 ① 河川特性 ② 自然環境特性 ③ 歴史・文化特性 ④ 社会環境特性	(H19年度_第4回) <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然環境・文化・歴史・生活などの関連性や本川と支川の関係など、川と向き合う新しい視点でリンクするように工夫すること。 ・ 支川も含め、上・中・下流における環境上の特性から区分すること。 	(1) ゾーン・エリア区分 (前略)・・・この流域特性は、過去から河川とそれに伴う自然環境があり、その恵みを受けよう、川のまわりには、田畑や舟運、そこから人の流れとして街道がつながり、人の営みが発生し、歴史・文化が形作られました。その結果、川の周りには里地が広がり、街道の周りには市街地が広がっています。 (中略)・・・各種特性を検討し、特性に応じたゾーンやエリアに区分し、それぞれの現状と課題を把握し、目標を設定していく必要があります。
3.2 河川環境の課題		
第3節 石川ブロックの将来像	(H19年度_第4回) <ul style="list-style-type: none"> ・ 各総合計画等における河川の位置づけを詳細に記載すること。 	<u>石川ブロック内の関連市町村では、社会情勢の変化に伴う人口減少や少子高齢化の進行に伴うまちの活力の低下が懸念されています。</u> <u>こうした中、流域市町村の総合計画等では、石川ブロックの特色である、豊かな自然と歴史文化を活かし、魅力的な街づくりによる人口減少の抑制、交流人口の拡大を図るなど、まちの活力を維持・充実していくことが求められています。</u> <u>河川や水路においては、災害に強い市街地の形成、雨水排水機能の確保、水資源の有効活用などの基本的な役割に加え、豊かな自然とまちを結ぶ水と緑のネットワークの形成などの観点から保全や整備を進めることにより、府民にとって、身近なみどりや水辺に親しめる魅力ある空間となること、地域の歴史や文化につながる空間となることが期待されています。</u>

石川河川整備計画 本文(案)

項目	主な委員意見	本文(案)への反映 (本文より抜粋)
<p>第4節 河川整備の目標</p>	<p>(H20年度_第4回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長期計画、整備計画等の関係性を明瞭にすること。 ・ 支川流量設定に合理式を適用する理由は何か。 ・ 本川・支川のバランスは取れているか。 <p>など</p>	<p>(参考資料) 河川整備の長期目標 (治水・利水・環境) および検討内容を添付</p>
<p>1.河川整備の対象区間</p>		
<p>2.河川整備の対象期間</p>		
<p>3.河川整備の適用</p>		
<p>4.洪水による災害の発生の防止または軽減に関する目標</p>	<p>(H19年度_第5回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 整備計画では、計画規模を含めた議論が可能か。今後策定される大和川水系基本方針の内容も踏まえた計画とするのか。 ・ 治水安全度の説明方法の統一、雨量等の併記すること。 ・ 近年の雨の傾向では、50mm/hをわずかに上回る雨が頻繁に起こっているため、当面の目標を見直した方がいいのでは。 	<p>石川ブロックでは、<u>長期目標をふまえて、整備計画対象期間内で各河川の状況に応じた段階的な整備を行います。</u></p> <p>・・・(中略)・・・石川本川では、<u>概ね50年に一度の規模の降雨(132mm/7h)</u>で発生する洪水を安全に流下させることができます。</p> <p>石川支川では、<u>概ね10年に一度の規模の降雨(概ね50mm/h)</u>で発生する洪水に対する流下能力が不足する区間について、治水安全度の向上を図ります。</p> <p>なお、整備の実施にあたっては、浸水により人的被害が生じる可能性の高い箇所等を優先して実施するものとします。</p>
<p>5.河川の適切な利用および流水の正常な機能の維持に関する目標</p>	<p>(H20年度第2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 正常流量を示すと、達成の可否が問題になる。動植物は定点の数値的なもので考えない方がよい。 ・ 河川環境を示す水深・流速で評価すべきであり、河床形状の整備も含めたオペレーションの方法も考えられないか。 	<p>また、<u>古来より続く水利など、歴史的な水環境にも十分踏まえつつ、将来にわたり健全な河川水の利用や動植物の生息・生育環境が保全されるよう、学識経験者や地元の方に意見を踏まえながら、関係自治体、利水者及び地域住民等の協働により、適正な水管理に努めます。</u></p> <p>なお、正常流量は、渇水時のみでなく、1年365日を通じた流量の変動にも配慮する必要があります。1年を通じた流量変動等、<u>総合的な観点から流水の正常な機能の維持・増強に取り組みます。</u></p>
<p>6.河川環境の整備と保全に関する目標</p>	<p>(H19年度_第4回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 流域の概要で示した社会動向の内容と計画のつながりを踏まえた説明となるよう考えてほしい。 <p>(H19年度_第3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 川がつくりあげた街であったが、近年、切れてしまっている。歴史から街づくり、川づくりを考えてはどうか。 	<p>石川ブロックの河川は、かつては、舟運による輸送路として産業を支え、用排水路として農業を支え、豊かな自然環境の一部を担ってきました。現在、約50万人の人々が生活する石川ブロックは、道路や鉄道への輸送手段の転換、流域の都市化による農地や樹林地の宅地等への変化に従い、<u>河川は山地の豊かな自然とまちを結ぶ水と緑のネットワークとして、貴重なオープンスペースとして、広域避難地などの防災用地としての機能が重要となってきました。</u></p> <p>また、流域には、「金剛生駒葛城山系」のもたらす豊かな自然環境、「寺内町」、「竹内街道」や「棚田」に代表される歴史・文化資源が数多くあります。こうした地域にあって、水辺は人々にとって憩いやふれあいの場、地域のシンボリックなものとして捉えられています。</p> <p>河川環境の整備と保全においては、河川の自然機能、親水機能、防災機能などを維持、発展させつつ、<u>歴史・文化資源や住民活動との連携により、「人」「自然」「歴史」の交流の川づくりを進め、川の魅力、さらにはまちの魅力向上につなげていきます。</u></p>

石川河川整備計画 本文(案)

項 目	主な委員意見	本文(案)への反映 (本文より抜粋)
第2章 河川の整備の実施に関する事項		
第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施工により設置される河川管理施設の機能の概要		
1. 飛鳥川 2. 梅川 3. 佐備川 4. 天見川		
第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所		
第3節 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項		
1. 河川情報の提供に関する事項		
2. 地域や関連機関との連携等に関する事項	(H19年度_第3回) ・ 流域の流出抑制について、今後どう考えて行くのかまとめてほしい。	治水に関しては、現在、流域市町村において、雨水処理施設、雨水調整池の設置指導、水源環境・保水機能維持のための森林保全など、水循環に関わる様々な取り組みが行われています。 <u>今後とも健全な水循環を図るため、流域を基本単位とし、河川管理者、自治体、関係住民、NPO 等との協働による流域管理への展開に努めます。</u>